

【科目名】 失語症学(2)		【担当教員】 伊林克彦、佐藤厚
【授業区分】 専門分野(失語・高次脳機能障害学)	【授業コード】 5-28-1090-0-1	(メールアドレス) ibayashi@nur05.onmicrosoft.com a.satou@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】 2 年次 通年	【選択必修】 必修	(オフィスアワー) 伊林 (火～金, 9～18 時) 佐藤 (月～金、木曜日除く)
【単位数】 3 単位	【コマ数】 30 コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 1 年次の中樞神経系に関わる解剖学や神経学の知識が必要とされます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 神経解剖学の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。		
【講義概要】 (目的) 1 年次「言語医学」の講義で学んだ神経学的基礎を背景に、失語症について学ぶ。器質的な脳疾患によって生ずるこの病態を把握し、その評価と類型別のトレーニング方法について履修する。また、当該患者における心理面への影響と社会的な関係についても意識を高める。 (方法) 座学によって失語症を理解した上で、臨床場面で用いる失語症検査を学生同士で、験者―被験者の立場で行う。併せてトレーニング法についても同様の方法で実施する。		
【一般教育目標(GIO)】 神経学的基礎で失語症の病態を理解する。その評価と訓練方法について履修する。また心理面への影響と社会的関係にも意識を高める。 【行動目標(SBO)】 言語聴覚士として失語症の評価、分類、訓練法などが実践できる。		
【教科書・リザーブドブック】 藤田郁代 監修・「失語症学」医学書院、2010 年 ¥5,000		
【参考書】 藤田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009 年 ¥4,725 伊林克彦 他著・「言語障害と画像診断」西村書店、2005 年、¥3,800 相馬芳明、田邊敬貴 「失語の症候学」医学書院、2003 年 ¥4,515		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。 評価は講義終了後の筆記試験にて行う。		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		80						20	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10
【授業日程と内容】									
回数	講義内容			授業の運営 方法		学修課題(予習・復習)		時 間 (分)	
16	失語症の評価① 言語機能検査 スクリーニング			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
17	失語症の評価② 言語機能検査 総合的評価			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
18	失語症の評価③ 言語機能検査 掘り下げ検査			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
19	失語症の評価④ 非言語機能検査			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
20	失語症の評価⑤ 医学面、関連行動面、社会 的情報の収集			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
21	失語症の評価演習① 症例の発話評価			演習		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
22	失語症の評価演習② 言語機能検査 総合的評価施行			演習		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
23	失語症の評価演習③ 言語機能検査 評価結果のまとめ			演習		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
24	失語症の評価演習④ 評価結果の報告			演習		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
25	失語症の言語治療① 失語症訓練の原則			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
26	失語症の言語治療② 言語治療の理論と技法 (1)刺激法などの古典的治療 法			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
27	失語症の言語治療③ 言語治療の理論と技法 (2)認知神経心理学的アプロー チ			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	
28	失語症の言語治療④ 言語治療の理論と技法			講義		予習・復習を必ず行うこと		30 分	

平成 26～28 年度入学者用

(3)活動制限、参加制約に対する方法				
29	失語症の言語治療演習	演習	予習・復習を必ず行うこと	30分
30	後天性小児失語症	講義	予習・復習を必ず行うこと	30分

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。